

田上 時子のエッセイ

TV. 海外の日本人ドキュメンタリー

日本のテレビはバラエティ番組が多くて見る気にならないが、たまにテレビ・リテラシー（読み解き）の目的で気になる番組を録画後視聴している。

5月最終週は、海外に住む日本人を特集した番組が、2時間スペシャルが2本（MBSテレビ『世界の日本人妻は見た！』、テレビ東京系列『世界で働くお父さん』）レギュラーが1本（テレビ朝日系列『世界の村で発見！こんなところに日本人』）と計3番組もあった。3本とも演出がほぼ同一で、教養番組ではなく娯楽番組で編成され、ドキュメンタリーをVTRしたものスタジオにいる出演者を交互に配置し、VTRの合間にスタジオの出演者がコメントするバラエティ番組方式で制作されている。民放各局が、良く言えば垣根が低くなっている、悪く言えば似たり寄ったり模倣の制作方式と企画であるのが最近の傾向か。

それにしても、タイトルからして「日本人妻」に「働くお父さん」と、日本国内のジェンダー・性別役割分業が余りにも当たり前で問題とも思わない制作側の意識が見てとれる。

今、国際結婚する日本女性は年間7,000人、一方結婚したくてもできない独身未婚日本男性は増加傾向にある。なぜ日本女性は結婚相手に日本男性を選ばないのか。

「過労死」と同様に「単身赴任」も日本の男

性の働き方の問題として、国際的にも指摘されてきた。その単身赴任が海外にまで及んでいるということだが、番組は単身赴任で海外に働くお父さんを、子ども達が内緒で訪問し励ますというもので、MCの「家族ってやはりいいですね」の閉めの言葉に、ついつい「家族がいいと思ったら単身赴任はしなくてすむ方がいいだろうに」と突っ込みたくなる。

『世界の村で発見！こんなところに日本人』の被写体は（私が見た限り）全員女性だったのは、さもありなん。女性は男性に比べて語学が得意で、柔軟だから、長期の海外生活ができるのだと言われるが、それだけが海外に定住する日本人は圧倒的に女性が多いという理由ではないと、私は体験者として思う。

私が留学を大義名分に日本を出たのは今から40年前の1975年だった。留学先のカナダは当時「地の果て」のように言われた。留学を終えても日本に帰国しなかったのは、ただただ女性蔑視の日本の文化、習慣、環境そして家族の呪縛すべてから解放されたかったからだ。日本は女性が人格権を確立したいと感じたら決して住みやすい国ではないというのが私の実感である。